

【学校の教育目標】 かしこく ゆたかに たくましい 北っ子の育成

育成を目指す資質・能力： 生きて働く知識技能 自他理解・探求 協働・挑戦

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	達成状況・成果・課題	評価	改善策
学びを生活に生かす力の育成 【知識及び技能の習得】	○ 50m走において、全国平均タイムを上回る児童を60%以上	学校 ○ 体育の月目標を設定してその達成を図る。 *1校1実践	○ 全職員が体育集会や体育の授業、休み時間に、マラソンを取り組ませる。運動場にいつでも50m走・マラソンができる環境を整える。	・50m走で全国平均タイムを上回った児童63%。 ・短距離走→運動会→長距離走の接続・運動。 ・グラウンド2箇所にするための環境整備	3	・3学期はなわとびに取り組みさせる。 ・ジャンプボードを置いたり、なわとびカードを作ったりして、環境づくりと、意欲化を図る。(家庭との運動)
		家庭 ○ 家庭での運動の日常化を図る。【PTA校外指導部】	○ 保護者が11月20日から11月29日までのうち4日間、親子運動に取り組み、結果の交流と、学級懇談会で総括を行う。	・保護者が11月14日～23日のうち4日間親子運動を実施。 ・行事と親子運動の運動は有効であった。	3	・次の運動として、親子運動になわとびを提起。1月末から期間の4日間を設ける。また、結果の交流と、学級懇談会で総括を行う。(学校との運動)
		地域 ○ 学校と連携して、健康づくりや体力づくり行事への児童の参加を呼びかける。	○ 地域が地域の健康づくりや体力づくり行事を学校に知らせたり児童への参加を呼びかけたりする。	・コロナ禍で取組は小規模であった。が、陸上の大会への参加呼びかけや事前の対応等行えた。	2	・3学期も感染状況を見ながら、地域のイベント等の参加をよびかけ、体力づくりへつなげていく。
幅広い考え方や伝え方ができる 【思考力、判断力、表現力等の育成】	○ 市販テストの読解力の平均正答率が、80%以上を継続する	学校 ○ 学力の基盤となる読解力を高める授業を推進する。	○ 担任が国語科を中心に授業の中で「音読」を取り入れる。また、週末は高学年は一週間に1回程度、低学年は二週間に1回程度読解プリントをさせる。	・平均正答率87.5% ・国語科の授業において「音読」を実施できた。 ・読解プリントの取組は、各学年、計画通りに実行できた。	3	・3学期も「音読」「読解プリント」の取り組みを継続する。 ・正答率を上げる取組へ。プリントの評価・確認を行う中、児童への実施率をあげるだけでなく「わかる」(正答率)の向上へ。
		家庭 ○ 家庭と連携して、音読力を高める。【PTA研修部】	○ PTA研修部が9月14日から18日の一週間「親子音読」を行い(統一カードを使用)、結果の交流と学級懇談会で総括を行う。	・期間内に「親子音読」の取り組みを実施できた。 ・研修部員が結果を集約。交流も紙面で実行できた。 ・期末PTAでの総括も実施。	3	・3学期は音読の効果的な取組み方を確認し、統一カードを使用。1月下旬に1週間「親子音読」の取組みを設定し取り組む。
		地域 ○ コーディネーターと連携して地域人材の活用を図る。	○ 地域が2学期に1～2回程度、来校したり、児童と一緒に地域へ出かけたりにして地域教材を活用した学習に取り組む。	・各学年の実態に応じて、地域教材を活用した学習を2～3回実施できた。	3	・3学期も年間計画に沿って、コロナ対策をとりつつ、地域人材を活用した学習に取り組む。

【学びに向かう力、人間性等の涵養】 思いやりや気力の育成	○ 児童アンケートにより「すすんで気持ちの良いあいさつができた」という子どもの割合を80%以上	学校	○ 進んで「気持ちの良いあいさつ」ができるようにする。 2学期は「誰にでもあいさつ」に取り組む。	○ 担任が、月末に毎月達成状況を確認。併せて生活指導部が集会等で指導する。児童会と連動し月目標の提案で「誰にでもあいさつ」に取り組ませる。	・肯定解答率84%。 ・目標値は達成。しかし、児童会との連動等は不十分であった。2学期は体育委員・保健委員会の月目標を優先したため、児童会での提案ができなかった。	2	・3学期に児童会と連携し提案、評価する取組みへ変更。 ・達成状況も自己申告の段階でわっていたので、毎月集計し、集会で評価を行っていく。
		家庭	○ 学校・家庭・地域が連携して「ワンストップあいさつ」運動を推進する。	○ 家庭・地域が、見守り活動時やあいさつ運動を通して、学校と連携したあいさつの取組を継続して行う。広報部が、年間を通して、あいさつの取組をすすめていく。	・PTA広報部が、アンケートを行い、広報誌で呼びかけを実施した。 ・広報部員が、呼びかけを行い、学級懇談会などでの交流・総括を行えた。	3	・2学期にとったあいさつアンケートを活用し、広報誌で結果を活用。PTAで学年末評価を実施。
		地域					

【働き方改革の推進】	○ 時間外勤務時間月平均33時間以内、60時間以上の職員ゼロ継続 ○ 教職員アンケートで「働き方改革に努めている」の肯定的な割合70%以上	学校	○ 効果・効率的な働き方のための業務の見直し ○ 業務改善における家庭・地域の理解促進	○ 管理職は、業務改善推進委員会を月一度開催し、業務の見直しと指導を行う。管理職は、学校運営協議会において、働き方改革についての議題を学期1回設定し、家庭・地域の理解と協力を得る。	・時間外勤務時間：月平均31時間44分：60時間以上の職員ゼロ。 ・働き方改革：肯定回答率100%。 ・行事と、時間外勤務との関連を見据えることが必要。	3	・取組みを継続する。 ・勤務時間の短縮を図るため、タイムマネジメントIを強く意識させ、ICTの活用等を行わせ、仕事の効率化を実行させる。
		家庭	○ 学校支援活動の充実	○ 学校運営協議会は、学校の働き方改革について、学期1回熟議を行い、学校支援の立場で具体策を考え、実行する	・学校運営協議会で、状況報告を行い、学校行事の実施等への相談や協議を行う。 ・2学期は、個別での相談が多かった、広がりを持たせたい。	2	・学校運営協議会の充実に向け、委員との連携、協議の充実に向け、3学期2回の開催を図る。 ・コロナの状況次第だが、学校支援に向け、授業や児童実態の参観を行う。
		地域					